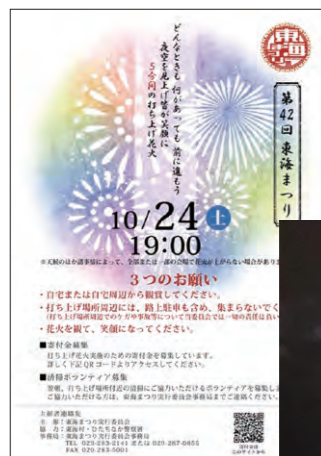


活動速報はホームページに掲載しています <http://www.garan.ne.jp/ochi>



◀第42回東海まつり 打上げ花火(10/24)

東海まつり実行委員会主催による「打上げ花火」が実施され、村内4か所から約5分間にわたり、秋の夜空に素敵な花火が広がりました。

おち議員もメンバーになっている実行委員会では、コロナ禍の状況において、どういう形式であれば花火が実施できるか、時間を掛けて丁寧に議論をし、また関係者と協議を重ねた結果、分散方式での開催が実現しました。

実行委員会事務局には、「何かと暗い話題が多いなか元気を頂きました」という喜びの声が多く寄せられており、新しい生活様式におけるひとつのイベントの形を示すことができたと感じています。



編集後記

朝起きて、子どもたちと顔を合わせて最初に交わす会話。「おはよう、体温測ろうか」こんなやり取りが当たり前の光景になった。ちょっとした外出時でも、必ずマスクを持参することもすっかり違和感が無くなった。まさに、新しい日常へと変貌した2020年であった。年末にかけて広がった感染拡大の第3波はいつになったら収束へと向かうのか？

不安や懸念が渦巻くなか迎えた2021年の干支は「丑」。牛は大変な農作業をしっかりと手伝ってくれる働きぶりから、丑年は「耐える年」「これから発展する、目が出る年」になるなどと言われている。

まだまだ「我慢」や「忍耐」が必要な時期が続くそうであるが、それでも良い1年になることを期待したい。

(し)

VOICE

～ リレーで綴る村民の声 ～

我が家は、私と妻、息子夫妻、孫2人の3世代6人で賑やかな日々を過ごしています。

孫娘は、今春高校の受験、未来の夢のため頑張っています。また、小2の男孫は、週3日ほど村の剣道スポーツ少年団に通い、鍛錬を重ねています。そんな孫たちの成長する姿を楽しみに見守っていきたくと思っています。

自分たちの世代が高齢を迎えるなか、東海村は高齢者への支援が充実していますが、おち議員には、これからの子どもたちへの支援の充実を含め、誰もが安心して暮らせる東海村をめざして、頑張っ

て欲しいと思います。
齋藤 亮一さん
(村松北在住)



年賀状の送付は、公職選挙法により規制されていますので本紙にて、新年のご挨拶とさせていただきます。

わかば通信

おち辰哉

東海村議会議員 議会報告



第52号

令和3年1月発行

発行人：おち辰哉後援会

日立市多賀町4-1-19
(日立製作所労働組合 日立国分支部内)
TEL 0294(33)0615
FAX 0294(38)5522

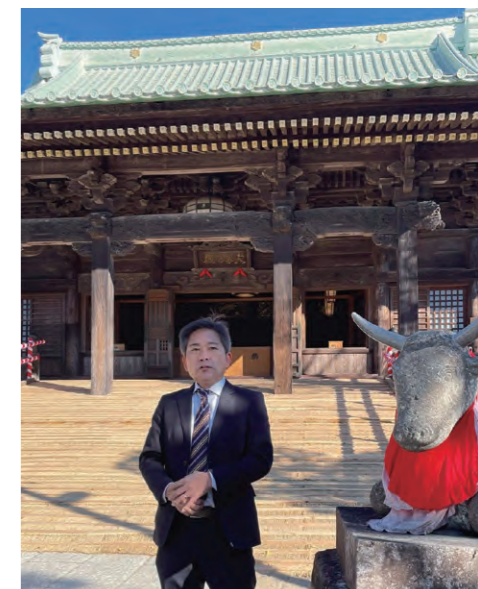
謹賀新年

新年を健やかに迎えのことと存じます。

去年は、新型コロナウイルスの影響により、日々の暮らしのなかで様々な制約がともなう生活様式へと一変し、今もなおその状況が続いています。

いつもとは違う形で新年を迎えることとなりましたが、皆さまにとって、明るい兆しを感じられる安寧な1年になることを、心よりご祈念申し上げます。

越智辰哉



NEWS

～ 東海村行政の身近なニュースをお伝えします ～



交流館建設 昨年末に無事竣工



歴史と未来の交流館建設については、東海村の歴史や文化の発信拠点、子どもたちの体験や遊びを通じた活動拠点として、幅広い世代が交流し賑わいをつくる生涯学習の拠点をめざし、令和元年7月から建設工事がスタートしました。途中、新型コロナウイルスの影響などにより工期遅延も懸念されましたが、昨年12月28日、無事に竣工を迎えました。

今後は、文化財や物品の移転納入、事務機能の移転作業に加え、旧中央公民館解体工事や暫定駐車場整備に着手。開館に向けた準備を本格化させ、令和3年7月末の開館を予定しているとのことです。

12月議会では、おち議員から建物の愛称に関する提案もありましたが、この施設を含む空間全体が、世代を超えて多くの人が集う新たな東海村のシンボルとなることを期待しています。

村立東海病院の 歯科診療を廃止

令和2年12月定例会を、12月1日から18日までの会期で開きました。
今議会では、村立東海病院の歯科診療の廃止にともなう条例改正や令和2年度補正予算など全17件の議案が提出されましたが、慎重審議の結果、すべて原案のとおり可決しました。



村立東海病院は、平成18年に内科・外科・歯科など9科で開設(平成22年に婦人科を新設)し、東海村の地域医療を主体的に担ってきました。

しかし、歯科については、開設以来、歯科医療の提供に努めてきたものの、近年は受診者数の低迷が続いており、経営上の不採算部門となっていました。

歯科廃止後については、村立東海病院を退院した方のリハビリテーションについて、外来リハビリを希望する方も多いことから、通所リハビリテーションの運営に取り組んでいくとのことです。



追加の活性化施策がスタート

「とうかいI~MOの割引キャンペーン」

村内の小売店や飲食店などで、お買い物や飲食をしたときに、30% OFF(上限3,000円)となる割引キャンペーンが12月25日からスタートしました!

この事業(キャンペーン)は、村民の生活を下支えするとともに、消費を喚起して村経済の活性化を図る東海村独自の追加の活性化施策であり、おち議員が所属する会派(新政とうかい)からの政策提言や商工会からの要望等に基づいて、村役場が予算化したものです。

新型コロナウイルスの感染拡大は、未だ収束が見通せない状況が続いていますが、感染防止には十分留意したうえで、多くの村民の方々に当該事業をご利用頂ければ幸いです。

対象商品 3割引
とうかい I~MOの割引キャンペーン
キャンペーン期間 令和2年12月25日(金)~令和3年3月15日(月)
利用方法
①割引額は1会計あたり、上限3,000円です。
②割引対象商品や設計の条件は、店舗ごとに異なりますので、店舗の表示牌を必ずご確認ください。
③割引を受けることができる方は、東海村長(在職・在学時)に限り、会派員に「利用料」を課し、村民であることを証明する(在住者印鑑の捺印、健康保険証(在職時)と共に出発明細書(在学時)学生証)を提示してください。
※ただし、村役場本部、金融、福祉、教育、保健、子育て支援、選挙事務等には対象外です。
【お問い合わせ】 東海村 産業部産業政策課 農工担当 TEL:029-282-1711(内線1289) 【参加店舗は】



おち議員の 一般質問

一般質問とは・・・
住民を代表し、村政全般について村長など執行機関の考えや方針を問い質すものです。



支え合い活動が広がらない要因は?

→ 村の補助制度は対象者に制約がある

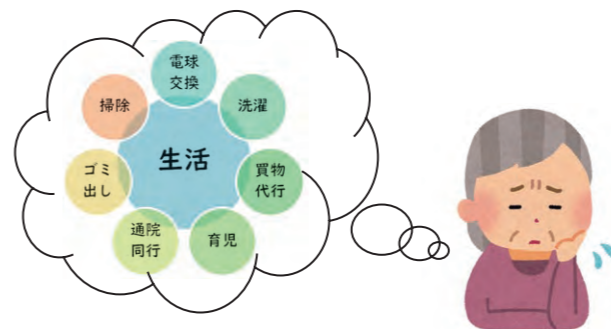
Q. 特に、高齢者の日常生活の困りごとを住民同士で助け合う「支え合い活動」の必要性が高まっているが、ニーズの高まりに対して本村でこうした活動が広がらない要因は何か?

A. 村には、「地域支え合い活動団体補助制度」があり、介護予防を行う団体と生活支援サービスを行う団体に対する補助を行っている。しかし、活動回数や対象者の条件があり、特にサービス対象者が、要支援1・2および要支援の一手手前の方となっているなど、限定的であり介護保険制度の枠を超えられないことが一因にあると考えられる。

よって、この補助制度に合致する団体はいまだ存在しない状況となっている。

Q. 支え合い活動は、一般的なサービスではなく、住民同士の「おたがいさま」が原点である。現状の補助制度の枠組みではなく、役場の部局を越えた取り組みを展開すべきでは?

A. 物理的な支援のみならず、精神的な意識の醸成も大切であることを役場組織全体が共有し、地域と共に考えてまいります。



村民が運動に触れる機会を提供すべき

→ 健康増進や観光部門との連携も視野に入れる



Q. 2019年度の全国体力テストの結果では、小学生男子は過去最低の数値だったとのこと。本村においても、子どもたちの体力低下の傾向はあるか?

A. 本年度は、コロナ禍により体力テストが実施できていないので、子どもたちの体力低下を正確に計ることはできないが、休み時間や放課後にも全く運動しない児童も少なくなく、運動習慣や外遊び等が減っており、運動を好む児童と好まない児童の差が大きくなっている。

Q. 子どもたちが運動を始める良いきっかけとなっていたのが、中学校の部活動であった。しかし近年、教職員の働き方改革の観点から、部活動の形が大きく様変わりしている。今後の学校と部活動の関わりはどのようになるのか?

A. 部活動については、学校の部活動に所属するのではなく、Jリーグの下部組織や地域のスポーツクラブに所属して活動する生徒が多くなってきた。また、学校の働き方改革や競技経験のない顧問の指導負担を踏まえ、外部指導者に部活動の指導を任せる形を進めている。

今後の方向として、学校の先生方に部活動を任せるのではなく、スマイル東海などの地域スポーツクラブや各種競技団体の優れた指導者等がサポートできる部活動のあり方が求められている。

